時事新報

十一番地 郵便報知社

東京　明治十七年七月十五日　火曜日　第七百十一號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官達第六十五號

明治十二年(一月)第一號達海軍會寮式第三條第七條中軍書總監トアルヲ損傷總監軍醫總監主計總監ト改正候條此旨相達候事

明治十七年七月十四日　太政大臣三條實美

官省院廳府縣

賞勳敘任

○明治十六年十月八日

敘勳一等贈與旭日大綬章　索遜國王陛下ノ宮內卿外務卿兼陸軍卿　フオン、ハブリース

敘勳三等贈與旭日中綬章　索遜國王陛下ノ式部頭　フオン、ミルナキツ

○明治十六年十二月十日

敘勳二等贈與旭日重光章　索遜國王陛下ノ陸軍少將　ポン、ヤユーベルト

敘勳二等贈與旭日重光章　索遜國王陛下ノ陸軍大佐　カアール、アウグスト、ゼンリー

敘勳二等贈與旭日重光章　索遜國王陛下ノ陸軍大佐　カアール、ハウル、エドルフオン、ブルフニツ

敘勳三等贈與旭日中綬章　索遜國王陛下ノ陸軍少佐　チツトツ、ヤヘルハルムユリユスツエチル

敘勳三等贈與旭日中綬章　索遜國王陛下ノ陸軍少佐　フリードリヒ、ノオルエンゲル

敘勳四等贈與旭日小綬章　索遜國王陛下ノ陸軍大尉　ベルメハード、ウテルデマールウイゲル

○明治十七年六月四日

敘勳五等贈與瑞寶章　元工部省雇伊太利國　アーレ、サンジョワンニー

敘勳五等贈與瑞寶章　元工部省雇伊太利國　シヤンツヤ、エンゾ、カバレツテイ

○明治十七年六月二十三日

敘勳五等贈與受光旭日章　村松彦七

和蘭國皇帝陛下ヨリ贈與シタル、リウドル、ファン、サーデルランセン、レーウ勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

○明治十七年七月十二日

任內務權少書記官　狩野良知

任內務權少書記官　畠山重明

任內務權少書記官　內務一等屬　藤尾伍鹿

任山梨縣收稅長　山梨縣南都留郡茅北都留郡長齋土齋

任檢事　裁判所書記　武文筧

時事新報

清佛兩國ノ和戰如何

我輩ハ昨日ノ紙上ニ於テ支那佛蘭西兩國間ノ葛藤再燃ノ次第ヲ畧記シ去月下旬東京ノ郎松ニ於テ支那軍ガ佛軍ヲ襲撃シタリト云ヘル事ハ其曲情佛就レノ方ニ在ルヤ未ダ詳ナラズト雖ドモ兎ニ角ニ此葛藤再燃ハ佛蘭西人ノ甚ダ喜ブ所ナラントノ次第ヲ述ベタリ並シ山西、北寧ノ略取以來次デ又天津條約ノ畫定以來ハ佛國人ノ眼中ニ支那人ナシ隨テ爐武爭利ノ心情頻リニ其懷ニ往來シテ禁スベカラズ天津ノ和約條欵佛國人ノ身ニ取リテ利ハ則チ利ナリ數十人命ト數十萬ノ金額トヲ消費シ一率シテ東洋一大王國ノ所有權ヲ定ム決シテ不廉ナル寶貨取引ト云フベカラザルナリ然リト雖ドモ既ニ幾十ノ人命ト幾千萬ノ金額トヲ費シタル以上ハコレヲ無代價ニテ得タルモノニ比シテ尙ホ一著ヲ讓ルノ感ナキヲ得ズ天津ノ和約ニテモ今少シ此方ノ要求ヲ張大ニシタリト決シテ敗北ハナカリシモノヲ當カ一度東京ノ全土ヲ掌握シ支那三百ノ通商權ヲ取ル位ニテ滿足シタル人ハ此上モナキ失策ナリシナリト思フ輩カ一般佛人ノ胸中ノ風潮ガ如何ニ激烈ナキ狀況ナリシニアラズ此際怒ヲ郎松戰撃ノ重大事件ノ現ハレ來ルアリ此事元來豫期セシ所ナルト雖期セザリシ所ナルトヲ問フニ及バズ唯事ノ起リタルコソ幸ナレ佛國人ノ心中先ヅ愉快ノ情ニ堪エザルモノアルナリ人或ハ謂フ佛國人ニシテ愉快極マルトハ今回佛國政府ヨリ五千萬圓ノ要求ハ支那政府ニ於テ異論ナクコレヲ承諾シ或ハ金員割達辨シ難キ間ハ福州港ナリ台灣島ナリ言フガ儘ニコレガ占領ヲ許シテ抵抗スルヲナキヲ知ルカ故ナルヤト我輩モコレニ答ヘテ佛國人ノ著眼スル所ハ唯結局ノ成敗如何ニ在ルノミ一時抵抗ノ有無ノ如キハ版圖擴張ノ大事業ニ屬スル細小ノ枝葉ニ外ナラズト云ハンノミ併シナガラ抵抗ノ大小長短ハ事業成敗ノ遲速ニ關スルヲ少ナカラザルヲ以テ我輩試ニ今回ノ葛藤ニ關シ支那政府ガ何ノ所置ニ出ルカヲ推測スル所アルベシ

今支那政府ノ執權者ヲ見ルニ親王軍機大臣以下諸省ノ總督撫撫ノ輩ニ至ルマデ一人トシテ海外萬國ノ事情ヲ審ニスル者ナク唯自尊自傲徒ラニ他人ヲ輕侮シテ自カラ喜ビ一概ニ人ノ下風ニ立ツヲ慊シトセズ老將左宗棠、彭玉麟ノ輩ガ醜夷伐ツベシト大言シテ只管中國ノ强大ヲ誇揚スルガ如キハ單ニ內國ノ民心ヲ收攬スルノ術策ニ用ルモノカト疑フ者モアレドモ其實ハ決シテ然ラズ左彭亦是支那固有ノ老措大ノミ唯支那アルヲ知テ世界アルヲ知ラズ文ニ武ニ天下能ク中國ノ右ニ出ルモノナシト信シテ疑フヲナシ左レバコヤ左宗棠ガ揚子江岸ノ舟子漁夫等ヲ符集メグルノミニシテ直ナニ醜夷ヲ鏖サントト欲スルガ如キアラバ此談判ハ決シテ調和セズ兩國開戰ノ上ニテ其勝敗ヲ決スルヲナラン然レドモ清廷幸ニシテ一李鴻章ノ在ルアリ此人ヨク西洋ノ恐ルベキヲ知リ又支那ノ恃ムベカラザルヲ知ルガ故ニ敢テ妄リニ外事ヲ開カズ勉メテ外國ノ交際ヲ滑カニシテ害萬ニ人ノ誘ニ應セズ今回天津ノ和約ノ如キモ支那ノ恥辱タル間ニリ論ナレドモ戰爭ニ勝ル萬々ナリトテ辱ヲ忍ビテ此和約ニ調印シタルナリ然ルニ約書ノ墨痕未タ乾カザルニ怒ヲ又郎松戰撃ノ沙汰アリテ賃金ヲ要求セラルヽ實ニ是非モナキ次第ナレバ唯撃否ノ及ブ限ヲ盡シテ其金額ヲ減少スルヲハ勉メザルベカラザルモ數千萬ノ金ヲ吝ミ又ハ海港占領ヲ辭セスル等ノタメニ無謀ノ戰ヲ起シテ全國ノ衆庶存亡ヲ顧ミザルガ如キハ思モ寄ラザル所ナリ李氏ニシテ倘ホ如此事ヲ主張センカ在廷ノ輩老臣如何ニ其軍略ヲ求ニセントスルモ事ニ着手ルヲ不案內ノ外交事務ナレバ幾分カ李氏ノタメニ左右セラレザルヲ得ザルヘシ加之傳政西太后ハ李氏ノ言フ所ヲ理アリトシテ既ニ天津ノ和約ヲモ締結セシメタル程ナレバ今ニシテ郎松ノ償金ヲ吝ミ俄カニ前說ヲ變スルノ憂アルベシトモ思ハレズ元來西太后ガ平和說ヲ嘉納スルハ何ノ理由ニ依テ然ルヤヲ知ラズト雖ドモ西太后ハ元ト咸豐帝ノ妃ニシテ帝ノ即位十年英佛聯合ノ兵天津ヲ攻破リテ行在沿道ノ支那軍ヲ破リ遂ニ北京ニ入ルニ及ビテ帝恐懼狼狽シ后妃諸王ヲ召具シテ熱河ニ蒙塵シ翌年遂ニ行在所ニ崩シタル等當時ノ艱難ヲ一々目擊實踐シタル人ナリ今ニシテ二十餘年前ノ事ヲ回顧セバ坐ロニ毛髮ノ竪ツヲ覺エザルヲナラン長髮賊ハ中國ノ十六省ヲ席卷シテ其暴威ヲ逞シクシ兇惡至ラザル所ナカリシト雖ドモ遂ニ一兵ノ風聞ニ迫ル者ナカリシナリ反之西夷ハ空中飛行ノ異術ニテモ修シアルカ數百ノ小軍能ク幾萬ノ天兵ヲ擊チ惱マシ閣下ニ直進シ來リテ敢テ强願スル所アラントシタリ今日ノ事別族ノ夷民ニ係ルナレバ或ハコレニ處スルノ法モアランナレドモ彼ノ咸豐十年ノ佛夷又來リタリトアリテハ西太后ヲ始メ殿宮ノ老女老宦官ハ皆其色ヲ變スベキヤ必然ナラン此等ノ事若シ果シテ西太后ガ平和說嘉納ノ原因ナランニハ灸ニ懲リタル子供ニ線香艾ヲ示スト一般到底主戰論ノ說法ハ無益ナリ在廷ノ諸老臣如何ニ其權ヲ專ラニスルモマサカニ西太后ノ勅命ヲ拒ムヤデニハ至リ得マシケレバ結局宣戰ノ沙汰ハ六ケ敷カランカ

以上ハ今日我輩ノ推測說ナリト雖ドモ其果シテ和風就レニ決シ又果シテ如何ノ結果ヲ生スベキヤハ固ヨリコレヲ今日ニ豫知スベカラズ唯我輩ノ信スル所ハ仮令平和ニ歸スルモ戰爭ニ及ブモ其勝利ハ必ズ佛國ニ在リテ支那ニ在ラズト云フノ一事ニ在ルノミ

電報

○七月十二日龍動發　グラッドストーン氏ノ或る改進黨の集會にて改革議案の事に付本年議院の休期會を開き自餘の事柄をば議せずして專ら此處置を評議せべしと述べ終り

○七月三日同所發　保守黨貴族の集會にて全會一致を以て州郡政權擴張議案を拒絕すべき決議を採用したり（編者曰此電報に保守黨の會議にて云々とあるは貴族の二字を加へて前報に誤を正したるものなり）

雜報

○明宮參內　嘉仁親王（明宮）には昨日午前九時有樂町なる中山從一位の邸を御出門遊ばされ供奉の中山從一位、同二位局其外女官等にて赤坂仮皇居（參內在せ給ひ　聖上皇后宮（御對顏遊はされ御附の方々へい夫々賜酒を賜ひ夫より同宮には御庭つゝたる青山御所へも成せ給ひ皇太后宮にも御對顏遊はされ午後御休憩所にて御膳殿にしく御膳殿在せ給ひたり

○御陵修成　恒武天皇の御陵は嘗て山城國紀伊郡伏見四圍、岡崎少書記官の手管にて文政十三年十月より修

○華族會館　日前帝室會計審査局にて華族會館の事件を議事規則の現なりしに議事規則の鍋島副議長の說明に依り會館の事件は大坂鎭台の管轄に決し

○溫泉行　香保ヶ溫泉行の出發は溫泉の發途にて

○御屋敷　樺戶、空知

○慰勞金　度發布の

○休暇延　に應じ

○樺戶村、字三笠家に御屋敷の手管にて文政十三年十月より修